

研究課題 「抗凝固薬服用症例における cold snare polypectomy (CSP) の有用性の検討」

研究期間

データ収集期間 2015年4月1日 ～ 2018年6月30日

データ分析期間 2018年7月5日 ～ 2019年3月1日

研究機関

地方独立行政法人 市立吹田市民病院 消化器内科

目的

CSP は、従来の Hot snare polypectomy (HSP) に比し術中、術後の出血イベントが少なく、CSP がより安全な手法であることが報告されています。また、抗凝固薬服用症例における polypectomy の出血割合は 10-20%程度と言われており、実臨床においては CSP を施行する症例が増加しています。そこで、今回当院での抗凝固薬服用症例における cold snare polypectomy (CSP) の有用性を検討することを本研究の目的とします。

方法

2015年4月から2018年6月の間に当院で抗凝固薬服用症例の大腸 polypectomy を施行した 62 症例(192 病変)を対象とし、さらに HSP を施行した(HSP 群)37 例、CSP を施行した(CSP 群)25 例の 2 群に分類し(同一患者で HSP と CSP を行ったものは、処置数に応じて $HSP \geq CSP$ を HSP 群、 $HSP < CSP$ を CSP 群とした。また、出血イベントが EMR であったと同定できたものは EMR 群とした。)、出血イベント(術中、術後出血)の発現率に関して調査し、統計学的手法にて分析します。

尚、術中出血とは、処置中に拍動性出血を来し止血を行ったものとし、術後出血とは、退室後に下血を認め内視鏡検査が必要であったものと翌日の採血で Hb が 2 以上低下したものとします。

意義

抗凝固薬服用症例における cold snare polypectomy (CSP) の有用性を明らかにすることにより、安全な治療を患者様に提供できる可能性があります。

個人情報の保護

本研究では患者様のカルテなどから身体所見に関するデータおよび治療状況に関するデータ収集を行うため、研究対象者のプライバシー保護のため研究の意義や目的、方法、匿名化の確保を行い、研究結果をインターネットのホームページ上に公表されます。研究のために知りえた個人情報は院外に持ち出さず、記録物と合わせて施錠可能な場所に厳重に保管・保存します。データは個人情報が特定できないようにします。また、本研究でのみ使用し研究終了後 5 年間保存しその後個人情報に留意し破棄します。研究結果は学会に発表することもあります。その際も個人情報が特定できないように対処します。当院倫理審査委員会の承認を得ます。

問い合わせ等の連絡先

地方独立行政法人 市立吹田市民病院 消化器内科 長生 幸司

住所：564-0082 吹田市片山町 2-13-20 電話番号：06-6387-3311